

## 音楽科学習指導本時案

授業者 内垣 美佳

日時：平成30年10月27日（土）第2校時（10：25～11：10）

対象：第6学年B組 30人

本時の主張点	自分たちの思いや意図が伝わる演奏になっているのか、という視点をもって録音した音源を聴き、振り返ったことを生かして曲想にふさわしい表現の工夫について意見を出し合うことで探究力と省察性を育むことができるであろう。
--------	--

### 1. 本時について

本時までには、器楽用に編曲された「串本節」（大柿かおる／編曲）の担当パートを決めて、個人や同じパート同士で練習をしたり、さらに学年全体で合わせて演奏したりしている。本時は、少しずつ完成してきた合奏の質をさらに高めていく場面になる。これまでの学びを生かして「もっと串本節の旋律を目立たせるように、他のパートの演奏の仕方に気を付けたい」という音量のバランスについての意見は前時までには子どもたちから積極的に出てくるであろうと予想される。本時では、自分たちの思いや意図が伝わる演奏になっているのか、という聴く人の視点に立ってこれまでの演奏を振り返る活動を行う。自分の成長を自覚したり、課題を見つけたりしながら、音の重なり合う響きや音量のバランスを意識するだけでなく、強弱など、さらに曲想を生かした表現の工夫についての思いや意図を膨らませる子どもの姿をめざす。

### 2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時では、録音した自分たちの演奏を聴き、これまでに培ってきた音楽的な見方・考え方を働かせながら、自分たちの演奏はどうきこえているのかを省察する。「はじめはあまり音が合わなかったけれど合うようになってきた」「音のバランスに気を付けて演奏したつもりだったけれど、もっと弱くしないと串本節の主な旋律がきこえないな」「全体的に強弱があまりついていなくて、単調な感じがするからもっと強弱をつけた方が楽しい感じが伝わる」などの意見が出されるであろう。演奏を重ねる度により良い演奏に近付いていることを実感し、さらに省察性を働かせながら「もっとこのように演奏したい」と子どもたち自らが探究していくことを期待する。

### 3. 探究的な学びを支える授業のしかけ

立ち止まって省察する場面を授業の中に取り入れることで、子どもたち自身が新たな課題をもって、意欲的に探究していくと考える。個人、そして集団として探究していくには、どのように演奏するかについての思いや意図を全員で共有しながら学びを進めていく必要がある。そのために、拡大楽譜や演奏の構成図を使って出された意見をまとめることで、可視化し、共有化を図る。また、拡大楽譜や演奏の構成図は、6年B組が省察したことを学年全体に伝える際にも生かすようにする。

<sup>1</sup>音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること（新学習指導要領より）

#### 4. 育みたい資質・能力

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の響きに気を付けながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ力。(表現力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いや意図に合った演奏の仕方ができているかどうかを見直し、より良くする力。(表現力を支える省察性)</li> </ul>

#### 5. 本時の目標

曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。

#### 6. 本時の展開

○学習内容・学習活動	予想される子どもの反応	■教師の働きかけ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     本時のめあて：自分たちの演奏を振り返り、曲想にふさわしい表現を工夫しよう                 </div>		
1. 音が重なり合う響きや音量のバランスに気を付けて自分たちの演奏を聴く。 ・前時まで話し合った音が重なり合う響きや音量のバランスについて、自分たちが工夫したことが演奏に生かされているか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめ合わせた時に比べて、みんなの音が合ってきたね」</li> <li>「もっと串本節の旋律がきこえるように演奏したい」</li> <li>「だんだん強くしていったつもりだけど、あまり強弱がついていなくて単調な感じがする」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全体で合奏をする度に録音をしておく。その中から2つの音源を聴き比べ、良くなった点と改善点の両方について話し合わせる。</li> <li>■聴いている人に演奏への思いや意図が伝わっているかという視点をもって聴くように促す。</li> </ul>
2. 曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・強弱などの表現を工夫し、曲想にふさわしい表現をめざす。  ・工夫を生かして表現できるように各自演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「前奏のクレシェンドをもっと大胆に表現しよう」</li> <li>「楽譜のEの部分は、波を表して話したよね。だから、もっと強弱をつけて大きい波に揺れている感じにしたい」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■個人で考える時間を設けてから全体で話し合わせる。</li> <li>■拡大楽譜や演奏の構成図を使って、考えをまとめる。</li> </ul>
3. 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今日話し合ったことを全体練習の時に、他のクラスの人にも伝えていこう」</li> <li>「まだ発表する機会があるから、もっといい合奏にするために、強弱を意識して練習していきたい」</li> </ul>	思 互いの楽器の音、リズムや旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。